

vol.84

February 2018

---

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トポス]

# TOPOS

[特集]

「藤井川ダムカレー」で地域活性化！



# 「藤井川ダムカレー」で地域活性化!

2016年度から始まった茨城県城里町の地域活性化プロジェクト「めざせスターダム! Make up 城里～高大官連携プロジェクト～」で誕生した『藤井川ダムカレー』。手掛けたのは常磐大学コミュニティ振興学部地域政策学科(現・総合政策学部総合政策学科)砂金ゼミナールの学生と、水戸桜ノ牧高等学校常北校の生徒、城里町役場および地域おこし協力隊員の皆さん。大学生と高校生、自治体が地域の課題に取り組むプロジェクトは、全国的にも珍しい取り組みです。ダムカレー完成間近の今、その軌跡をたどります。



\* 城里町の健康増進施設「ホロルの湯」にて2018年3月10日から販売予定です。

## 「藤井川ダムカレー」で 認知度最下位の町が脚光を浴びる

茨城県内のシンクタンクによる「市町村認知度ランキング」で最下位にランキングされた城里町では、知名度向上と観光客の誘致が長年の課題でした。解決に立ち上がったのが、常磐大生と高校生、城里町が連携する「めざせスターダム! Make up 城里～高大官連携プロジェクト～」です。同プロジェクトは、町づくりやコミュニティ、行政や市民のあり方を学ぶ砂金ゼミナールの学生が中心となって進められてきました。2016年度は現在の4年生5名がプロジェクト案をまとめ、2017年度は3年生7名が『藤井川ダムカレー』の実現に向けて活動してきました。藤井川ダムは地域を豊かにする水源としても欠かせない存在です。そのダムを地元食材で表現し、新たな名物として地域活性化につなげるのが、このプロジェクトの目的です。

## 学生自ら地域の問題に向き合い 地域の活性化に貢献する

『藤井川ダムカレー』の実現にあたっては、ゼミの学生たちが高校生の意見を集約してダムカレーの企画案をまとめ、具体化に向けて地域の生産者や施設、茨城県庁や国土交通省、日本ダム協会、民間企業に直接かけあって協力を呼びかけました。食器の開発や食材調達、試作などに掛かる資金は学生自らが予算計画を立て、インターネット上の「クラウド・ファンディング」で全国から出資金を集めるという新たな試みにも果敢にチャレンジしています。地域の人々や組織と連携して学生の力で実現させた今回のプロジェクト。地域における諸問題に取り組み、地域の資源や特性を生かしたまちづくりを学ぶ地域政策学科(現・総合政策学科)ならではの実践的な取り組みとなりました。

# 藤井川ダムカレー完成までの道のり

4月

2017年春、プロジェクト始動する!



プロジェクトメンバーの初会合。高校生に向けて、ゼミ学生によるダムカレーのレクチャー、地域おこし協力隊員による城里町の紹介、城里町開発公社による藤井川ダムの概要を説明。それぞれアイデアを膨らませる。

8-10月

全国から資金を募り、PR活動に東奔西走



ゼミ学生がクラウド・ファンディングの運営会社側と協議。厳しい審査を乗り越えるべく何度も企画書を練り直し、掲載を勝ち取る。その後、クラウド・ファンディングのPRのため、茨城県庁や国土交通省、日本ダム協会などを訪問。関連するHPや広報誌に掲載してもらうことに成功する。全国的にも珍しいプロジェクトが注目を集め、新聞3紙の掲載も! 新聞記事が起爆剤となり、全国から138万円の出資が集まり、出資者から寄せられたメッセージが学生たちの大きな励みに。

連するHPや広報誌に掲載してもらうことに成功する。全国的にも珍しいプロジェクトが注目を集め、新聞3紙の掲載も! 新聞記事が起爆剤となり、全国から138万円の出資が集まり、出資者から寄せられたメッセージが学生たちの大きな励みに。



提供:茨城新聞(2017年10月4日付記事)

6-7月

ダムについて研究し、アイデアをまとめる



藤井川ダム内部を見学した後、ダム愛好家の宮島咲氏からダムカレーについて学ぶ。6班に分かれて、藤井川ダムの特徴を表現したダムカレー試作にチャレンジ。各班の高校生のアイデアをゼミ学生が集約し、投票により案を決定する。

多くのアイデアを一つの案にまとめる作業は大変だったが、多様なアイデアが検討されたことで、よりブラッシュアップされた案を作り上げることができた。

11-1月

関係者と協議を重ね、最終形を決定!

学園祭の来場者にダムカレー試作品を販売し意見を聴取。アンケート結果やこれまでの案をまとめ、ダムカレーが販売される「ホルルの湯」の調理担当者や、カレー皿を制作する地元陶芸家と最終形を協議。アイデアを実現する難しさを学ぶと同時に、アイデアが次第に形になっていく喜びも味わう。



藤井川ダムを模したカレー皿。「ホルルの湯」のキャラクターと水位メモリ入り!



地域の未来は  
僕らの行動力に  
懸かっている

プロジェクトメンバー  
松本瑞生(地域政策学科3年)  
小林瑞歩(地域政策学科3年)



地域の水確保や洪水対策を担う藤井川ダムは、城里町の暮らしや農業に欠かせない存在です。城里で生まれたお米や野菜を使った『藤井川ダムカレー』で多くの人に城里町を知ってもらおうきっかけになればと考えています。プロジェクトの実現にあたっては城里町の方々をはじめ、自治体や民間企業などさまざまな方々にご協力いただきました。自分たちが率先して行動することで、人を動かし、社会を変えていけると手応えを感じました。

自分たちが主役になる!  
その信念と行動が  
地域を元気にします

砂金祐年 准教授  
(総合政策学部)



「地域」を学ぶには、自分たちが主体となって地域の活動に参加することが一番です。今回のプロジェクトを通じて、学生たちが成長していく過程を目の当たりにしてきました。近い将来、彼らが自治体や企業で働き、地域の一員として生きていく上で大切なのは「自分たちが主役」という意識です。この経験を通じて、世の中をより良い方向に変えていくことができる社会の一員に成長してくれることを期待しています。

# 「石の上にも3年!」セミナーで、若手社員のキャリア支援

2017年11月17日、常磐大学で地域の企業と連携したワークショップ型の若手社員研修「『石の上にも3年!』セミナー」が開催されました。県内で働く社会人が集い、仕事の悩みや失敗・成功談を語り合い、スキルアップや意識向上のためのディスカッションが活発に交わされました。地域で働く若い力を応援する本セミナーは昨年度に続き2回目の開催。今回もまた熱気あふれる集いとなりました。



## 働く意欲がアップする 有意義な意見交換の場

今回のセミナーでは、常磐大学・短期大学卒業生を含む若手社員11名、30代の先輩社員5名が参加しました。グループに分かれてワールドカフェ方式で「私の経験の中で成功したこと、やり遂げたこと」「私の経験の中で失敗したこと、どう乗り越えたか」などのテーマでディスカッションし、経験やアイデアを共有しました。それぞれ異業種の企業からの参加でしたが、若手社員が直面する仕事上の悩みや壁は共通する部分が多く、業種や職種の垣根を越えて活発な意見交換が行われました。最後は、参加者一人ひとりが今後の目標を発表し、前向きな雰囲気の中でセミナーは終了しました。

### ワールドカフェ方式

- ① 先輩社員1、2名に対し、若手社員4、5名にグループ分け
- ② テーマに沿ったディスカッションをスタート
- ③ テーブルの紙に意見やアイデアを書く
- ④ 先輩社員以外のメンバーは移動。これを何度か繰り返す
- ⑤ 参加者全員で情報共有、発表する



## 卒業生など社会人への キャリア支援で地域貢献

本セミナーは全国大学実務教育協会 常磐大学部会（旦那ゆみ教授、菅田浩一郎准教授）とキャリア支援センターが主催しています。203の大学が参画する全国大学実務教育協会では、若手社員の早期離職の問題を解決すべく、社会人のキャリア支援を行う「就業力向上推進特別委員会」を発足しました。旦那教授、菅田准教授がメンバーに加わり、卒業生など地域の社会人への人材教育を通じて地域貢献を目指しています。セミナー開催にあたっては、茨城県中小企業同友会や常磐大学同窓会、常磐短期大学同窓会の協力のもと参加者を募り、社会人キャリア支援を行っています。

### 「石の上にも3年!」セミナー主催

常磐大学・短期大学  
キャリア支援センター

全国大学実務教育協会  
常磐大学部会

協力

常磐大学同窓会  
常磐短期大学同窓会

茨城県中小企業同友会

## 参加者の声

今をポジティブにとらえ、  
前向きに成長したいです

若手社員

鯉沼伶奈

株式会社関川量商店勤務  
常磐大学コミュニティ振興学部  
コミュニティ文化学科  
2017年3月卒業



仕事や会社について悩んでいるのは自分一人ではなく、若手社員の多くが同じような壁にぶつかっていることを知り、安心しました。これからは、自分の置かれている境遇をポジティブに捉え、前向きに成長していけるのではないかと思います。大学時代にゼミナールや講義のグループワークで培ったコミュニケーション力を生かし、先輩や上司、また同期とのチームワークを大切にしながら、仕事に取り組みたいと思います。

人と人のつながりを大切にした  
働き方を目指します

先輩社員

大矢根一貴

株式会社イバデン勤務  
常磐大学コミュニティ振興学部  
地域政策学科  
2012年3月卒業



新入社員の方々の体験談を聞いて、自分も昔は同じような失敗をしていたことを思い出しました。とくに印象に残ったのは人間関係に関する悩みです。信頼を築くのは大変ですが、経験や知識を生かして努力することが大切だと思います。私は電気設備関係の仕事をしていますが、大学時代に調べた太陽光発電の知識がお客様との関係の構築につながっています。また、社内では、後輩が相談しやすい先輩になろうとあらためて思いました。

## 常磐大学発

## 新たなキャリア支援の輪を広げていきます

近年増えている若手社員の早期離職は、若い人材のキャリア形成に支障をきたすものとして社会的な問題になっています。多くの企業では入社1年目以降のフォロー研修は十分行われておらず、職場での人材育成の余裕がないという実情もよく聞かれます。本セミナーは、同じような立場の若手社員や経験豊富な先輩社員が仕事での課題や悩みを語り、よりよい働き方のヒントをつかむ場として活用してもらえればと考えています。仕事の壁を乗り越えていくのは自分自身ですが、その過程で悩みを共有したり、同じような体験をした先輩のアドバイスをもらうことは、その後のキャリア形成に大きな影響を与えます。しかし、会社においては悩みや失敗を率直に打ち明けることに踏み切れない若手社員がいるのも事実です。そこで大学というリベラルな場で、同世代の仲間や先輩と語り合う機会を提供することに意義があると私たちは考えます。自分の悩みや考えを自由に表明し、さまざまな人の意見や体験談を聞いて視野を広げる——そこから明日への活力は生まれます。このセミナーを通じて、若い社会人が生き生きと働ける社会をつくり、地元産業の発展につながる地域貢献ができれば幸いです。



旦まゆみ 教授  
(人間科学部)

菅田浩一郎 准教授  
(総合政策学部)



## みんなの夢を乗せて走れ、TOKIWAGON! 学生と地域が一体になる「ときわ祭」開催

学生たちが地域の人々と一体となる秋のイベント「ときわ祭」が10月28日、29日に開催されました。今年度のテーマは「TOKIWAGON ～夢を乗せて～」。ときわ祭に関わる全ての人々が常磐大学というワゴン車に夢を乗せて、未来へと走り続けてもらいたいという思いが込められています。このテーマのもと、各団体やゼミナールが模擬店や企画展、パフォーマンスなどを披露し、参加した全員が一つのワゴン車に乗り込んだような和気あいあいとした雰囲気になりました。旧体育館の一部を残した屋外ステージでは、オープニングやパフォーマンスを実施。台風の接近による悪天候にも関わらず、多くの人たちが駆けつけ、ステージで繰り広げられるプログラムに歓声を送りました。各団体が日頃の活動を発表する企画展では、日本の伝統文化や地域活性化への取り組みを紹介する展示、芸術やサブカルチャーに特化した発表など盛りだくさん。学生時代ならではの楽しみをキャンパスに集まった人たちとともに謳歌し、大学生生活の思い出の1ページに残る学園祭となりました。



## News and Topics

学び、体験し、日々成長している学生・生徒・園児たち。  
そんな彼らの活躍の場は、校内にとどまらず  
さらなる広がりを見せています。  
ここでは各学校の主な活動や取り組み、実績などをご紹介します。



### 学生たちによる「幼教フェスタ」で 幼児教育の学習成果を発表

短期大学幼児教育保育学科による「幼教フェスタ」が12月17日に開催されました。毎年の恒例行事ですが、今年度からは新しい体育館が会場。2階の展示スペースでは年間の活動をまとめたポスターや教材研究の作品が並べられ、来場者は幼児教育に対するさまざまなアプローチに驚きながら見入っていました。1階のステージ発表では、ハンドベルの演奏、ダンス、演劇、合唱など多彩なプログラムを披露。クリスマスにちなんだ演目も多く、華やいだ雰囲気でお客を魅了していました。中でも学生自ら作り上げた3時間にわたる舞台は見どころの一つで、チームの入れ換えや舞台転換など鮮やかな演出がなされました。この日のために積み重ねてきた努力が実を結び、素晴らしい完成度に観客は拍手喝采。学生たちが仲間と力を合わせてゼロから作り上げた「幼教フェスタ」は、いつまでも記憶に残る楽しい思い出となるだけでなく、今後保育者として活躍する学生たちを大きく成長させる貴重な経験となりました。





## 冬のキャンパスを駆けめぐる 元気な園児たちの「キャンパス探検」

年に1回の発表会を終えて迎えた12月4日。今まで発表会の練習に追われた分を取り返そうと、年中組で戶外遊びを存分に味わう計画を立て、その第1弾である「キャンパス探検」を実施しました。園児たちはキャンパス内の道なき道を忍者のごとくよじ登り、大学校舎の間を通り抜け、「天然落ち葉プール」を発見！ 園門前のクヌギの木の周りがかんな素敵な場所になっていたことに園児たちはびっくり。キャンパスのすり鉢状の土手を果敢に登って滑り降りたり、落ち葉の雪を降らせたり、落ち葉こたつに入ったりして、みんな大騒ぎで楽しみました。小春日和の1日。元気に駆け回って身も心もポカポカになり、思い出に残る日となりました。



## 斬新！ハイブリッド成果連動型資本ローンの 提案で、文堂ゼミナールが 「日銀グランプリ敢闘賞」を受賞

11月23日に開催された「第13回日銀グランプリ～キャンパスからの提言～」で、文堂弘之教授のゼミナールの国際学部経営学科3年生チームが「敢闘賞」を受賞しました。日銀グランプリは、日本銀行が実施する大学生を主な対象とする金融分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト。全国の大学から多数のチームが論文を応募し、審査を経て決勝大会が実施されます。今年は全国39大学から計112編の論文が集まり、5チーム(常磐大学、日本大学、摂南大学、一橋大学、東京経済大学)による決勝大会となりました。本学から進出したのは文堂ゼミナールの3年生チーム(代表・高橋風人さん、大野美穂さん、村上淳菜さん)。テーマは『労働環境評価融資で脱・長時間労働！～ハイブリッド成果連動型資本性ローンの提案～』です。最初は緊張した面持ちでしたが、審査員や多くの観戦者の前で堂々と発表し、質疑にも積極的に対応していました。審査の結果、本学は敢闘賞を受賞することができました。



## 自分の経験や活動を英語で発信！ 英語プレゼンテーション大会 「TOKIWA SPIRIT」

11月23日、第3回「TOKIWA SPIRIT」が開催されました。大学・短期大学生による英語プレゼンテーション大会で、学内外の活動や体験を通して得た学びを英語で発信し、聴衆と共有することでコミュニケーション力、問題解決力、語学力を総合的に高めることを目的としています。最優秀賞「プレゼンテーションアワード」に選ばれたのは、人間科学部コミュニケーション学科1年の飯塚航さん。交換留学生との交流経験から、より多くの学生に交流イベントに参加してもらいたいという熱い思いを語り、会場の票を最も多く集めました。



## 最先端の技術に触れて、未来を思い描く 「プロフェッサー・ビジット」開催

高校生が進路について考える「プロフェッサー・ビジット」が11月8日、開催されました。最先端の科学に触れて、自分の進路を思い描くイベントで、弘前大学医学部脳神経病理学講座教授の若林孝一先生が「脳のしくみと病気予防から治療まで」をテーマに授業を実施。33人の生徒が参加しました。最先端の研究から明かされた脳の働き、体との関連、アルツハイマーのメカニズムと予防法など高度な内容を分かりやすく解説。全員が最後まで深く聞き入り、授業後は質問する生徒も続出しました。医療は基礎的な研究と治療の研究の両輪が進むことで発展を遂げてきたと語る若林先生。この貴重な経験から、生徒が未来の目標やビジョンを思い描き、やがては大きな社会貢献を成し遂げてくれることを願います。



## ボストン・ニューヨークをめぐり、 世界を学び、体験する海外研修旅行(4年次)

日本時間10月13日朝、ボストンに到着した4年次生は、マサチューセッツ工科大学(MIT)とハーバード大学を訪問。学生の案内でキャンパス内を見学し、医学研究所では日本人研究者の講演を聞きました。4泊のホームステイでは、智学館で身に付けた英語力を発揮して、ホストファミリーと親睦を深めました。16日からはニューヨークに移動して、市内見学。国連本部ビルでの学習で世界について学び、リパティ島やグラウンド・ゼロの訪問では歴史や平和への思いを深めました。生徒たちからはアメリカのスケールに圧倒されながらも、積極的に現地の人と関わろうとする姿勢がうかがえました。今回の海外研修がこれからの学習に活かされていくことを期待します。





## 全国大学ビブリオバトル2017に参戦! 他大学の学生たちと切磋琢磨

「全国大学ビブリオバトル2017～首都決戦～茨城決戦大会」が11月5日、水戸市の茨城県立図書館にて開催されました。本学から出場したのは国際学部経営学科4年の須田真弘さん。卒業論文をきっかけに出会った高橋昌一郎著の哲学書『知性の限界』の論評で、10月4日に常磐大学で開催された関東Dブロック予選会を勝ち抜いての参戦です。今回の茨城決戦では、残念ながら本戦出場は叶いませんでしたが、須田さんは「大変貴重な機会でした。緊張してしまいましたが、他大学の代表の発表が素晴らしかったので、結果に満足しています。本学の後輩が次年度勝ち抜いてくれることを期待しています」と全力を尽くした喜びと後輩へのエールを語りました。



## クラスが一体となって盛り上がる 学年別クラスマッチを開催

9月7日、8日の両日、石岡市運動公園にてクラスマッチを開催しました。リレー(男女)、サッカー(男子)、バレーボール(女子)、バスケットボール(男子)、ドッジボール(女子)、大縄跳び(男女)のクラス対決では、生き生きとプレーする生徒や必死に声援を送る生徒の姿が見られ、活気に満ちた2日間となりました。総合優勝は、1年生は12組、2年生は4組、3年生は5組が勝ち取りました。



## 就職活動に向けて業界研究スタート 金融・保険業界見学バスツアー

11月13日、いよいよ就職活動が本格化する大学3年生の業界研究の一環として、「金融・保険業界見学バスツアー」を開催しました。3年生23人が参加し、損害保険ジャパン日本興亜株式会社茨城支店(水戸市)と株式会社筑波銀行つくば本部(つくば市)を訪問。損害保険ジャパン日本興亜では支店見学や社員との座談会、電話業務のロールプレーを通じ、仕事や保険の仕組みや意義などを学びました。筑波銀行では営業フロア見学や札勘定の練習、社員との座談会を通じ、銀行業務、地方銀行の役割などを学びました。企業のご協力のもと、金融・保険業界の理解を深め、仕事のイメージや意欲を膨らませる有意義なツアーになりました(このバスツアーは常磐大学COCプラス事業の一環として実施いたしました)。



## 水戸まちなかフェスティバルに 高校生たちがボランティア参加

9月24日、水戸市中心市街で行われた「第6回水戸まちなかフェスティバル」に、今年度も本校生徒がボランティアとして参加しました。昨年度を大きく上回る1・2年生の生徒85人(JRC部員を含む)が参加し、司会進行や来場者の案内、アンケート調査、美化活動など各係に分かれて活動。この活動を通じて、社会の未来を考え、行動できる人に成長してほしいと思います。



## 豊かな感性を育む芸術の秋 芸術鑑賞会でオペレッタを楽しむ

本校では毎年秋に芸術鑑賞会を実施しています。年ごとに音楽・演劇・古典芸能を鑑賞する催しで、こうした取り組みを通じて、校訓である「豊かな自分になる」を実現させることを目的としています。今年度は音楽で、ヨハン・シュトラウスII世作曲のオペレッタ「こうもり」を鑑賞しました。演じられたアーツ・カンパニーの皆さんの美しい歌声と、軽妙なダンス、ユーモラスな会話に、生徒の目と心が釘付けになった2時間でした。



## 感情のコントロール法を心理学から解き明かす 心理臨床センター主催の公開講演会

常磐大学心理臨床センター主催の第24回公開講演会が12月3日に開催されました。講師にお招きしたのは、日本医科大学医療心理学教室講師で臨床心理士の榎村正美先生。「イライラしすぎなあなたへー怒り感情との上手な付き合い方ー」というテーマで、日常生活の「イライラ」との向き合い方や解消法についてお話いただきました。怒りのメカニズムを理解したうえで、「数を数える」「その場を離れる」など怒りと上手に付き合う実践的な対処法を紹介。呼吸法、筋弛緩法などのリラックス法もレクチャーしていただきました。また怒りに隠された本心がうつの原因となりうる危険性も指摘。榎村先生は怒りを上手にコントロールすることの大切さを会場に語りかけました。





## 日本の歴史や文化に触れる 奈良・京都への国内研修旅行(5年次)

10月5日～7日、5年次は、2泊3日の国内研修旅行に出かけました。当日はあいにくの天候でしたが、古都奈良にある世界文化遺産の文化財や京都を満喫することができました。初日は語り部の会による講話を聞き、東大寺や興福寺を訪れました。宿は京都の佇まいを今に残す西陣荘で、女将さん手作りの京料理に舌鼓を打ちました。2日目は京都大学大学院の留学生とともに、英語でコミュニケーションをとりながら京の街を散策しました。最終日は北野天満宮でそれぞれの夢を祈願し、鹿苑寺金閣と清水寺をめぐるしました。日本の伝統や文化に触れる有意義な研修旅行となりました。



## 大自然に触れて、環境の大切さを学ぶ 尾瀬自然探求旅行(3年次)

9月25日～27日、3年次生は2泊3日で自然探究旅行に行きました。植樹体験や足尾銅山内の見学では、日本の環境・公害問題について真剣に考え、自然保護に対する意識を高める良い機会となりました。また、素晴らしい天候に恵まれた尾瀬では、ガイドの話に熱心に耳を傾け、自然環境を守っていく大切さを知ることができました。そして、足場の悪い道のりを皆で励まし合いながら、全員が全行程を歩き切ることができました。歴史や自然についてじかに見て、触れて、考えることができ、生徒一人ひとりにとって貴重な体験ができた3日間でした。



を皆で励まし合いながら、全員が全行程を歩き切ることができました。歴史や自然についてじかに見て、触れて、考えることができ、生徒一人ひとりにとって貴重な体験ができた3日間でした。



## 英語で自分を表現する English Dayを開催

本校のEnglish Dayは、英語のコミュニケーション力を高め、プレゼンテーションスキルを身に付けることを目的としています。1年次は歌詞の暗唱、2年次は物語の実演、3年次はグループ討論(茨城県のインタラクティブ・フォーラム形式)、4年次は海外研修のプレゼンテーション、5年次は「雇用の将来性」について自分の主張を英語で語りました。6年次生は運営の中心となり、行事を成功に導く役割を担いました。生徒たちは緊張しながらも、覚えた英語で懸命に発表し、それぞれの勉強に真剣に取り組んでいることが観客に伝わってきました。今回のイベントが生徒たちの今後の英語学習への意欲を高める機会となり、より大きく成長してくれることを期待しています。



## 「トキワの森」で 保護者の方によるボランティア清掃活動

本園では、ボランティア登録をいただいた保護者の方々に学年ごとに年1回、清掃活動のご協力をお願いしています。保育室のワックスがけ、除草、落ち葉掃きなど園内の環境整備に取り組んでくださっています。11月は、年少組で登録されている保護者の皆さんに、子どもたちが落ち葉で遊んだ「トキワの森」の落ち葉掃きをお願いしました。クヌギなど木々の落ち葉が降り積もり、土の部分が見えないほど大量の落ち葉を掃き集めていただきました。毎回、快く参加してくださる保護者の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。



## 新しいお友達が増えた！ 4匹の金魚たちの飼育スタート

園庭には、2つの小さな池があります。夏までは細い土管からチョロチョロと流れ出ていた湧き水が、秋の長雨から水量が増えはじめ、一定の水位に達するようになりました。「何か飼育できるといいね」という声が上ががり、自宅で金魚を育てている先生が金魚を4匹、幼稚園にプレゼントしてくれました。年長組の園児たちが名付け親となり、色が赤い「うめちゃん」、コブがあるように見える「こぶちゃん」、小鳥みたいな名前の「ぴーちゃん」、一番小さいのは「チビちゃん」と、ぴったりの名前をつけてくれました。4匹の金魚たちは、餌をたくさん食べてすくすく大きく育っています。寒さの中でも、のびのび楽しそうに泳いでいる姿にみんな癒されています。



## 子どもたちの成長を祝う 12月の誕生日会

毎月恒例の誕生日会では、誕生月の園児たちが主役となります。誕生日を迎える園児の保護者をお招きし、全園児で祝います。誕生月の園児が自己紹介をして、担任の先生からメッセージ付きの色紙やフォトスタンド、お友達から歌のプレゼントをもらおうと、みんなニコニコうれしそうです。先生による出し物は、歌・踊り、パソコンを駆使した楽しい創作話や、華やかな合奏による演奏会、手品などでセミプロ級の仕上がり。バラエティーに富んだ演目がお祝いに華を添えます。子どもたちが成長する喜びをみんなで分かち合うひとときを過ごしました。





# Eye on Dream

この春、羽ばたく学生、生徒に注目！



## 智学館

智学館中等教育学校 6年次  
皆藤 珠貴  
進路: 桜美林大学 リベラルアーツ学群

## 高校

常磐大学高等学校 3年  
西丸 真彩  
進路: 茨城大学 教育学部 教育実践科学コース

じっくりと学んだ充実の6年間  
大学生活で自分の専門を深め、  
日本文化を世界に伝えたい

私は将来、日本の文化を世界に広める仕事をしたいと思っています。6年間の学校生活では国語と英語の授業を多く選択し、自分の学びたい分野をじっくり学べました。国語は1冊の本を読んで、内容を話し合う「激論会」があったり、英語はネイティブ・スピーカーの先生によるAll Englishの授業や英語での劇や討論を披露するイベント「English Day」があったりと実践的な学びが充実しています。学校生活でとくに印象的だったのが、アメリカでの海外研修旅行。私は「日米ファッション比較」というテーマで街を回り、ボストンでのホームステイも経験しました。異国での生活を経験することで日本の特色や良さも発見しました。大学ではこれまで磨いてきた英語力をさらに高め、将来につながる専門分野を見つけていきたいと思っています。

先生と仲間に恵まれた高校生活  
大学では教育を学んで、  
国語の先生になる夢を叶えます

私の夢は、国語の先生になること。国公立大学を目指し、1年次から特進コースで勉強に励んできました。最初は授業についていけるか心配でしたが、クラス全体が前向きな雰囲気、休み時間にはお互いに教え合ったり、問題を出し合ったりと和気あいあい。楽しみながら勉強する習慣が付ききました。私は数学が不得意だったのですが「人一倍頑張ろう!」と決めて、放課後や休み時間に数学の先生にマンツーマンで教えていただき、苦手を克服できました。高校生活では、合唱同好会に所属し、入学式で歌を披露したり、水戸芸術館でのベートーベン「第九」の大合唱に参加するなど、とても充実していました。大学生活でもさまざまな経験をして、大きく成長したいと思っています。

# Eye on Books

大学・短期大学の教員が執筆したさまざまな分野の著書をご紹介します。

## 自立へのキャリアデザイン

一地域で働く人になりたいみなさんへ  
人間科学部 教授 且まゆみ



且まゆみ 著  
2017年9月 ナカニシヤ出版  
常磐大学の1年次必修「キャリア形成と大学」の授業で使うテキストとして書きました。ワークシートや図表を多く入れています。本書を通じて地域のために働く人の基礎力をつくれたらと思っています。

## ステップアップ臨床栄養管理演習

一基本症例で学ぶ栄養ケアプロセスの実際  
人間科学部 専任講師 大津美紀



永井徹・長谷川輝美 編著  
2017年4月 建帛社  
栄養管理の経験が少ない学生向けに、栄養ケアプロセスの手順を理解・実践することを目的としたテキストです。栄養診断、PES報告、栄養介入計画の手順がまとめられています。

## 図書館人物事典

人間科学部 助教 田嶋知宏



日本図書館文化史研究会 編  
2017年9月 日外アソシエーツ  
図書館に関わる主要な人物の経歴や活動を知るための事典です。「チャールズ・マッカーシー」、「伊東善五郎」などの15人分の項目を執筆しました。

夢を叶えるために日々学び、仲間と成長してきた学生、生徒たち。  
 今、卒業を目前にして、大きく羽ばたこうとしています。  
 充実の学校生活で得た学びや友人、思い出、  
 そして、新たなステージに向けての目標を聞きました。



短大

常磐短期大学 幼児教育保育学科 2年  
 小林 司  
 進路: ちゃいるどはうす森のほいくえん

幼児教育の専門知識と技能で  
 子どもの健やかな成長を促す  
 保育士を目指します

私が幼児教育に興味を持ったきっかけは弟の誕生でした。小さな弟の面倒を見るうちに、子どもに関わる仕事に関心を抱きました。幼児教育を学べる学校を探していたところ、常磐短大は先生方の指導が手厚く、カリキュラムが充実していると聞き、入学を決めました。学科の勉強で学んだのは幼児教育の重要性。保育士は子どもの心や体の発達段階を理解した上で、遊びや製作、運動などを通じて発達を促す役割を担います。課題研究では発達心理学を学び、子どもの睡眠に関する研究成果を学内の「幼教フェスタ」で展示発表しました。本学は常磐大学幼稚園や地域の幼稚園・保育園・施設などでの実習が充実しています。幼児教育の現場に多く触れることで大きく成長できたと感じています。



大学

常磐大学 人間科学部 コミュニケーション学科 4年  
 叶野 優奈  
 進路: 株式会社トップシーン

メディア研究のゼミナールで学んだ  
 分析力とプレゼン力を生かし、  
 魅力あるテレビ番組をつくりたい

小学生の頃からテレビ番組が大好きで、将来はメディアに関わる仕事がしたいと考えていました。大学で最も没頭したのは3年次からのゼミナール。テレビや新聞、SNSなどの影響力や視聴者心理について講義や討論を通じて掘り下げていきました。また、毎回決められたテーマに沿って披露する「3分間スピーチ」では、自分で考えて伝える力が鍛えられました。就職活動でとくに大変だったのはエントリーシートです。マスコミは企画書や自由作文など独自の課題を設ける企業が多く、キャリア支援センターのスタッフに相談しながら何度も練り直しました。面接は3分間スピーチで鍛えられたプレゼンテーション力で突破することができました。テレビ制作を一から学びながら、魅力ある番組を世に送り出す制作者を目指します。



### 物語フィンランドの歴史

一北欧先進国「バルト海の乙女」の800年  
 キャリア教養学科 准教授 石野裕子



石野裕子 著  
 2017年10月 中央公論新社  
 フィンランドの歴史を、最新の学説を踏まえながら分かりやすく綴った概説書です。フィンランド人の起源から2017年の政治状況まで1冊で分かるようになっています。

### 北欧文化辞典

キャリア教養学科 准教授 石野裕子



北欧文化協会、バルト=スカンディナヴィア研究会、北欧建築・デザイン協会 編  
 2017年10月 丸善出版  
 北欧文化の持つ独自性とその魅力の数々を、その歴史的背景、地域性、政治的状況、社会的状況、建築・デザインなどと関連付けて書かれた事典です。

### 心と心でお話しね

幼児教育保育学科 教授 福田洋子



濱崎武子、山路純子 著  
 2017年8月 世界文化社  
 臨床心理士と幼稚園教諭による、カウンセリング理論を取り入れた幼児教育の現場を豊富な事例で紹介しています。「第8章 カウンセリングを幼児教育に生かすための研修活動を執筆しました。」

## Campus schedule

大学・短大	
卒業式・学位授与式	3/20(火)
入学式	4/3(火)
オリエンテーションガイダンス	4/4(水)~7(土)
授業開始	4/9(月)
高校	
卒業式	3/1(木)
3学期修了式	3/22(木)
1学期始業式	4/6(金)
入学式	4/7(土)
智学館	
卒業式	3/2(金)
4学期修了式	3/22(木)
1学期始業式	4/5(木)
入学式	4/6(金)
幼稚園	
卒園式	3/16(金)
第3学期終業式	3/20(火)
第1学期始業式	4/9(月)
入園式	4/10(火)

### 諸澤幸雄奨学金 奨学生決定のお知らせ

2017年11月に開催した「諸澤幸雄奨学金奨学生決定通知書授与式」について、以下のとおりご報告いたします。



大学	I種奨学生	1名
	II種奨学生	4名

### 寄付者ご芳名 (敬称略)

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。  
[2017年9月~12月受け付け分]

諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実	
法人	
500,000円	(株)西山工務店*
個人	
500,000円	森 征一*
100,000円	稲葉 孝子*
100,000円	横須賀 敬章*
4,000円	坂井 知志*
-----	
芳名のみ公表	江原 麻子* 齋藤 祐輔* 田邊 正*
累計金額 100,000,208円	

見和キャンパス開設50年施設整備事業募金	
団体	
100,000円	常磐大学バドミントン部OB会 代表 南館 康範
個人	
500,000円	匿名
50,000円	水口 進
40,000円	小柳 武*
40,000円	富田 恭平*
20,000円	中村 和彦*
10,000円	寺田 彩*
-----	
芳名のみ公表	内田 和毅* 関 いづみ* 根本 知計* 久松 雄大* 横山 正和*
累計金額 10,154,760円	

教科書等調査研究の助成	
250,000円	(公財)教科書研究センター*

受配者指定寄付金	
500,000円	(株)紀伊國屋書店*

●複数回お申し込みくださいました方は芳名に\*を付しました。

寄付募集の詳細については、  
ホームページでご覧いただけます。

寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ  
学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

[お電話で] **029-232-2554**  
[メールで] **kifu@tokiwa.ac.jp**

### 皆さまからのご意見大募集!

- ①印象に残った記事とその理由など
- ②今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど

皆さまからのご意見・ご感想を  
メールまたははがきでお寄せください。

※名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する  
学校名)も併せてご記載ください。

[メール送信先] **kikaku@tokiwa.ac.jp**

[はがき郵送先] 〒310-8585  
茨城県水戸市見和1丁目430-1  
学校法人常磐大学 総務課広報係



お寄せいただいた方の中から、  
抽選で20名様に  
常磐大学オリジナルグッズを  
差し上げます。



常磐大学大学院  
常磐大学  
常磐短期大学



常磐大学高等学校  
智学館中等教育学校  
常磐大学幼稚園



<http://www.tokiwa.ac.jp/>

### 常磐大学・常磐短期大学 2017年度 海外研修参加者

2017年度は、総勢27人の常磐大学・常磐短期大  
学生が、以下の日程で海外研修に参加します。

**海外研修 (アメリカ)** 参加者11名  
カリフォルニア大学アーバイン校  
2018年2月4日~3月4日(29日間)

**海外研修 (タイ)** 参加者5名  
チェンマイ・ラジャバット大学  
2018年3月2日~3月17日(16日間)

**海外研修 (フィリピン)** 参加者11名  
バゴ市立大学  
2018年2月11日~2月24日(14日間)



常磐大学は平成28年度大学評価の  
結果、(公財)大学基準協会の大学基  
準に適合していると認定されました。



常磐短期大学は平成26年度(一財)  
短期大学基準協会による第三者評  
価の結果、適格と認定されました。